

Ⅲ. 看護学科の基本姿勢

【学科概要】

近年、少子高齢化の進展や医療技術の進歩などにより医療・福祉を取り巻く環境は変化しており、国民の医療に対する意識も、安全・安心の重視とともに、量から質の向上をより重視するといった方向に転換しています。このような社会環境や国民意識の変化に応じて、看護師には、質の高い保健医療サービスの提供者としての資質や能力の向上が求められています。

看護学科は、基礎教育および専門教育による学士課程教育を通じて、社会生活を送るうえで必要となる知識・理解、汎用的技能、態度・志向性、創造的思考力の習得をはかります。また、看護学分野に関する基礎的な知識および基本的な技術と態度を習得するとともに、看護師として生涯成長し続けるための基盤となる資質と能力を有し、他の医療関係職種と連携・協働して看護師としての役割を果たすことができる人材を育成します。

【教育目的】

看護学科は、看護師として必要な知識および技術と態度を体得し、卒業直後から指導助言のもと看護実践ができる能力を付与するとともに、看護学研究に関する思考力と創造性を有し、看護学の進歩に即応しつつ、将来的に高度な知識や技術を有した看護師となる基礎を培うことにより、地域の保健・医療・福祉の向上に貢献します。

【教育指針】

北海道科学大学として実学の理念から看護の実践力を養うことを中核に、学生各自の目標を達成できるよう教育プログラムを工夫するとともに、主体的に学び課題を探究・解決する能力を養います。さらに、他職種と協働して保健医療に貢献できる能力を培う教育を展開します。また、工学教育の実績を基盤に、医療機器操作に必要な知識とICT（情報通信技術）能力を習得し、看護の場で新たな看護技術を創造できる看護師の育成をめざします。

【教育・学習目標】

- 1年次： 看護学の学習にとって基盤となる能力を養うために、日本語表現法、英語、基礎数学や社会の理解、人間の理解などの基本教育科目を学習します。専門基礎科目としては、解剖生理学、病理学、病態学、疾病治療論などを学び、人体の構造と機能の理解および主要疾患の成因・病態・診断・治療に関する臨床で活用できる能力を養います。看護学では、看護の基本として看護学概論や看護学基礎技術論などの学習が始まり、講義・演習により看護の基盤となる知識・技術・態度について実践的な能力を養います。
- 2年次： 成人・老年・小児・母性・精神・在宅看護学の授業が始まり、看護学の中核をなす科目が開講されます。各専門領域の対象論・方法論を講義・演習により具体的に学習します。基礎看護学では、臨地実習により初めて看護の対象と出会い、学内で学んだ既習の知識と技術を統合し看護の基礎となる実践力を養います。
- 3年次： 前期に各看護領域の援助技術論を演習により具体的に学習し、後期には、専門領域の病院・施設などの臨地実習が始まります。あらゆる発達段階や健康レベル、さらに多様な地域に暮らす対象とその家族に対して科学的根拠に基づいた看護の基礎的な実践能力を養います。また、他の医療関係職種と連携・協働し、チームの医療の中で看護師としての役割を果たすことを学びます。
- 4年次： 前期には、成人・在宅看護学実習に続き看護総合実習により3年間の看護学の学習成果を統合し、看護が科学的理論と哲学を融合した実践的・科学的な学問であることを学びます。また、通年にわたる卒業研究では、看護学研究に関する思考力と創造性を養い、最新の知識や技術を自ら学び続け高度な専門性を有した看護師となる基礎を培います。

【ディプロマ・ポリシー】

看護学科は、本学の教育理念である「ヒューマニティとテクノロジーの融合」を中心に据え、「保健衛生学分野と工学分野に関する専門的な教育研究活動を通じて、地域社会に貢献する医療関連人材の育成」を目指します。併せて、地域における高等教育機関としての使命を果たす学部の教育課程が定める授業科目を履修し、別に定められた卒業要件を満たした学生に「学士」の学位を授与します。これによって、卒業生には、以下の能力・知識・態度が身につけていることを保証します。

1. 知識・理解

- (A) 看護学の基本となる知識を修得し、看護における基礎と応用に関わる知識を理解する能力。併せて看護学専門科目を通して社会における諸問題解決のための必要な知識・基本的ルール・スキル。
- (B) 看護師としての基本的かつ広範な世界に通用するリベラルアーツ。

2. 汎用的技能

- (C) 日本語および基本的な英語における基盤となる技能（読む、書く、聞く、話す）が相互に作用し、日常場面、職場、研究の場において必要なコミュニケーション能力。
- (D) 情報処理やコンピュータの利用に関してこれを適切かつ効果的に活用し情報の収集や収集した情報の整理を効率的に行い、自分の考えや成果物を正確に伝える能力。さらに看護師として必要な数理基礎と診療・治療への応用の知識を修得し、思考・推論・創造する能力と自己学習力（意欲）。

3. 態度・志向性

- (E) 保健医療における診断・診療・医療の安全管理などの諸問題に対して、看護学の目的と知識・技能を駆使して、他の医療技術者とチームを組み解決策を協働しながら創出し成果を得る能力。
- (F) 地域、国土、自然そして生活や文化などにも精通したグローバルな倫理観を持って判断・行動できる能力。
- (G) 看護に必要な知識から知恵へと転換できるように、受身教育から自らが学ぶ能動教育を通して自らが生涯考え行動する能力。

4. 統合的な学習経験と創造的思考力

- (H) 将来看護師として必要な専門分野を統合・発展させ、より安全で高度な医療を提供するための分析能力、統合化能力、協働能力および表現力。

【カリキュラム・ポリシー】

本学では、ディプロマポリシーの各項目を達成するために必要な授業科目の流れや、各ポリシーと授業の整合性を体系的に理解してもらうためのカリキュラムフローを作成しています。また、各授業科目の達成目標とディプロマポリシー各項目の関連性についてはカリキュラムマップにまとめられております。学生諸君はこれらのツールを利用して学習を進めることにより、卒業＝ディプロマポリシー達成までの過程における自らの立ち位置を確認することができます。また、教員団はその組織的関与により、常にカリキュラムの点検評価、および改善を行います。

【アドミッション・ポリシー】

看護学科では、「看護専門職として必要な知識および技術と態度を体得させ、卒業直後から指導助言のもとに独力で看護実践ができる能力を付与するとともに、看護学研究に関する思考力と創造性を有し、看護学の進歩に即応しつつ、将来的に高度な知識や技術を有した看護専門職となる基礎を培

う」ことを目的として、看護専門職を育成し、地域医療の向上に貢献いたします。

—求める人材像—

- ・看護に興味を持ち、看護を通じて社会に貢献しようという意欲を持つ人
- ・看護師としての技能の向上の重要性を認識し、自らの専門職としての能力を高め続けることができる人
- ・高等学校等において、能動的に幅広く学び、国語、外国語、数学、理科、地理歴史、公民で学習したことを身につけている人